



発行所 有限会社メタル情報センター  
 本社 〒530-0043  
 大阪市北区天満2-12-3  
 南栄広ビル3階E号  
 電話(06)6353-7831(代表)  
 FAX(06)6353-7832

東京支社 〒104-0083  
 東京都中央区新川1-31-8  
 ニックハイム茅場町  
 電話(03)3523-0442(代表)  
 FAX(03)3523-0443

購読料 6ヶ月 36,750円 前金  
 3ヶ月 18,900円

アルミ  
くず

## 関西アルミくず、11月前半は横ばい見通したが 外電と輸入塊の動向次第では小幅下げも？ 発生は依然低調、ピーク時の半分との声も

11月前半のアルミスクラップ市況は、海外新塊相場が軟調に推移しているため、雲行きがやや怪しくなりつつある。

一応、二次合金メーカーの生産量やスクラップの品薄を勘案すれば「横ばいになるのではないか」(大手問屋)とみられているが、週明けにも本格化する値決め交渉期間中の外電の動向次第では、「大きな下げにはならないだろうが、少し下がる」(同)可能性も決して否定できない状況のようだ。

また、年内はロシア塊などの補助的な原料の入着が多いとみられるため、輸入原料の入着量との兼ね合いによっても下げ圧力の強さが変わってくることになりそうだ。

スクラップの発生は依然として低調なままだ。前出の大手問屋によれば、10月の入荷量は、発生が低調だった9月からほとんど変わらない低い水準だと言う。「リーマンショック以降少ないままなので一概には(どれくらい減ったとは)言えないが、ピークの頃と比べると扱量は半分にまで減っている」(同)。

自動車工業の中心地である中部地方では比較的堅調な発生があるとされているが、関西は弱電関係の企業が多く、大規模工場の移転などによって苦戦を強いられている。また大企業は採算の悪化を背景に

部品の内製化やリターン材の活用なども増やしており、原料問屋が取引している下請け・孫請け企業からの入荷が細っている。

二次合金メーカーの買値実勢値表(1トン前後の比較的小規模な取引)を以下に示している。なお、納入量やスクラップの状態(結束されているかどうか)などによってはズレが生じることもあるので要注意。

| アルミ2次合金メーカー買値実勢値<br>(1トン以上・置場・現金・キロ当たり円) |   |
|--|---|
| 関東地区 (10月後半)                             |   |
| 2S                                       | 145円～155円、63S=147円～158円、アルミホイール(1P)=143円～157円、ビス付サッシ=117円～125円、エンジンコロ=137円～140円、込合金(機械铸件)=118円～126円、缶プレス(ソフト)=118円～122円           |
| 関西地区 (10月後半)                             |   |
| 2S                                       | 144円～152円、63S=142円～150円、52S=136円～144円、印刷板=147円～155円、ベースメタル=168円～178円、機械铸件=116円～123円、ダライ粉=93円～103円、ビス付サッシ=116円～123円、缶プレス=101円～111円 |

## 11月銅は7,000ドル割れで買い支えを予測 アルミは自動車のマイナス影響は限定的

橋本健一郎氏(橋本金属)は、11月の銅とアルミの原料価格動向と需給についての見通しレポートをまとめたので、概要を紹介

する。  
10月前半、米格付け会社ムーディーズのイタリア債の三段階引き下げなどマイナス

要因はあったものの、国慶節前にLME銅のキャンセルワラント(指定倉庫から出荷予約)率が倍増したことによる需給の引き締め観測や仏大手金融機関デクシアが資本注入のための分割、売却を行ったことなどで7,500ドル(セツル)と370ドル暴騰しての前半締めとなった。後半、FRBが地区連銀報告書(ページブック)で米景気について不透明感があるとの言及などにより、6,800ドル近辺まで下げる場面もあったが、欧州連合の包括戦略で問題であったヘアカット率について民間金融機関が結果的に50%で妥協、受け入れたことなどを好感し急騰11月1日現在、7,900ドル(セツル)と前半締めから400ドル強上昇 建値67万円の好調スタートとなった。

10月に続き7,000ドルを切る水準では実需筋の買いが入るとの思惑からLME価格で7,000-8,100ドル。銅建値に関しては59-68万円程度と予測している。

アルミもおなじく、10月前半は欧州懸念が後退し2,188ドルと55ドル上げての前半締めとなった。後半は10月26日の欧州会合で結

果的に欧州債務問題について具体策がでたことを好感し、11月1日現在 LME(現物後場)2,230ドルの40ドル強上昇のスタートとなった。

輸入塊は上海シグマが10月末 現在で2,400ル(-20)、ロシア塊は2,210ドル(-110)と下落している。

LMEアルミ価格について、LME価格は10月2,100ドル割れがなかったことから値固めは済んだと考えており、米経済指標の健闘及び現在のファンダメンタルズ(需給)を考えれば LMEで2,200-2,300ドルを予測。

アルミ原料需要・価格に関して復興需要は一服。故に自動車関連以外の需要は減少。前月に続き、最大の需要家である自動車メーカーの自動車生産・販売・計画共、約+20%と好調維持が期待されていたがタイの洪水以外で先行きは不透明である。とはいっても現在は好調なため今月の需給は発生難、需要増の供給不足。LME価格については10月後半価格から据え置きを予測。

## ◆自動車生産台数

|      | 7月      | 8月       | 9月       |
|------|---------|----------|----------|
| 生産台数 | 79万325台 | 70万4696台 | 88万3593台 |
| 前月比  | 6.50%   | -10.90%  | 25.40%   |
| 昨年対比 | -8.90%  | 1.80%    | -4.50%   |

## ◆自動車販売台数

|      | 8月       | 9月       | 10月      |
|------|----------|----------|----------|
| 販売台数 | 21万6510台 | 31万8790台 | 24万7927台 |
| 前月比  | -10.30%  | 44.90%   | -21%     |
| 昨年対比 | -25.50%  | 1.70%    | 28.30%   |

## ◆生産計画台数

|      | 10月      | 11月      | 12月     |
|------|----------|----------|---------|
| 生産計画 | 91万9200台 | 97万1700台 | 88万300台 |
| 前月比  | 3.80%    | 5.70%    | -9.40%  |

世界を結ぶ  
専門商社  HGITANI

亜鉛・鉛・銅・ステンレス・機械・半導体  
アルミ・金属珪素・非鉄金属全般

## 株式会社 扇谷

本社 大阪市西区土佐堀1-3-7  
TEL(06)6444-1520~1530  
東京支店 東京都千代田区神田錦町3-15  
TEL(03)5282-4800  
名古屋支店 名古屋市中村区名駅3-16-22  
TEL(052)571-2005  
海外 シンガポール・香港・タイ・台湾  
マレーシア・フィリピン・上海・深圳  
<http://www.ogico.co.jp>

## 海外 国際鉛・亜鉛研究会、鉛・亜鉛の需給予測を発表

2011年9月29~30日、ポルトガルのリスボンにて国際鉛・亜鉛研究会(ILZSG)が開催され、各国代表、産業団体、企業、コンサルタント等約130名が参加し、鉛・亜鉛に関するプレゼンテーション及び議論が行われた。同研究会は2011年及び2012年の需給予測を以下の通り発表した。

<鉛>2011年及び2012年の鉛地金消費

量は、それぞれ対前年比6.1%増の1,015万t、同比4%増の1,056万tと予想した。

主な理由は、2011年及び2012年の中国の見かけ消費量が、自動車販売の減速や環境への懸念に伴う鉛蓄電池の生産工場閉鎖にも関わらず、それぞれ対前年比7.4%増の453万t、同比6%増の480万tと見込まれたためである。一方、製錬での地